

市民文芸

短歌

阿南市文化祭秋季短歌大会選

佳作 兼任ゆき子

干し上げし毒だみ刻む真剣に不老長寿のお茶にしあれば

佳作 清 善恵

朝夕に秋の気配の高まりて食欲そそるすだちの薫り

佳作 西條 悦子

灯心の揺らげば母の颯ち出でて似たる猫背は吾の怠慢と説く

佳作 福崎 孝子

琵琶奏者の「まりさん」悼む暑き夏「耳無し芳一」聞く術もなし

佳作 森岡 圭子

立て看に怒り肩の字の並びたるキャンパス歩む気負い遙けし

佳作 佐野 幸子

夫あらば買えよと言ってくれたろにバッグを前に友のつぶやく

佳作 高尾 久枝

酷暑ゆえ実り少なき石高の収穫済みて夏は終りぬ

俳句

阿南市俳句連合会選

ういろいろを分ける母待つ雛納

繁木 良子

藪椿備前の壺に活けにけり

瀬藤 豊子

テープカットに幼を加へ梅開き

陶久 晴義

橋揺らぐ県外ナンバー山笑う

工藤千鶴子

老いの目に沁みる朝日や山笑う

西條 佳恵

軒の下雛さんざめし無人の家

張本 雅宣

七人目の誕生知らず弥生尽

田上 隆敏

楽市をめぐり巡りて山葵漬け

萩原 陽子

縄文の辰砂の朱色春動く

車田マサ子

望郷の羽撃き勇む春の鴨

奥田 蒼朗

川柳

阿南川柳会 鈴木レイ子選

阿波弁のぬくもり抱いた内緒ごと

二階千代美

正面は何時も美人の居る処

野口 吾朗

紙屑と思ひ捨てたら諭吉さん

多田紀久代

居るだけで緑の風が吹く若さ
自販機も釣り銭までは温めず
何時の日も心に秘めている希望

持木 寿栄
高木 旬笑
西田 修身

一般応募

ダイヤ婚いくつも越えた山と谷
ピカピカに鏡みがくも顔のシミ
蝶になる夢捨てきれぬカタツムリ
プラごみを魚が誤食し人が食べ

島尾美津子
武田 敏子
仁井 信子
吉田 當代

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

雨中看梅

細雨梅林來往稀
吟朋風雅泥春衣
一詩無就徘徊久
只看橫斜眼福宜

細雨の梅林 來往稀なり
吟朋の風雅 春衣を泥らす
一詩就る無く 徘徊久しく
只看横斜眼福宜 眼福の宜しきを

荒瀬左知子

牡丹建仁寺に咲く

建寺榮西茶道祖
千年祠廟儼尚存
牡丹含笑芳庭裏
幽寂境中忘塵煩

建寺の榮西 茶道の祖
千年の祠廟 儼として尚お存す
牡丹笑を含む 芳庭の裏
幽寂たる境中 塵煩を忘る

池田 行子

初夏田園散策

薰風習習拂襟爽
新緑萋萋促歩輕
白鷺悠然水田啄
那邊裂帛杜鵑聲

薰風 習習 襟を払って爽やかに
新緑 萋萋 歩を促して輕し
白鷺 悠然として 水田に啄み
那邊ぞ 裂帛 杜鵑の聲

折野 博子